Japanese Association of Veterinary Anatomists

News Letter

Number 28 日本獣医解剖学会報 September 7th, 2006

＜巻頭挨拶＞

欧州獣医解剖学会（European AVA）および WAVA Meeting (informational) について

会長　谷口和之（岩手大学）

今年の夏は例年にない猛暑で、盛岡でもいまだに寝苦しい夜が続いています。しかしこのニューズレターが御手元に届く時には厳しい残暑から開放されていることと期待しております。

さて、この3月21日にはアジア獣医解剖学会（Asian AVA）が晴れて発足致しました。ここに至るまでの獣医解剖学会会員各位のお力添えに篤く御礼申し上げます。

しかし Asian AVA はあくまでも世界獣医解剖学会（WAVA）の Regional Branch として発足したものですから、WAVA に Asian AVA の設立を報告し、Asian AVA が WAVA の Regional Branch であると承認してもらう必要があります。このことについては北大の橋本先生からのご提案もありましたので、私はこの7月に開催された欧州獣医解剖学会（European AVA）に出席し、そこで Asian AVA の設立について報告して参りました。以下にその詳細をご報告致します。

第26回 European AVA は本年7月19ー22日までイタリア、シシリー島のメッシーナで開催されました。会場はメッシーナ大学獣医学部のキャンパスでした。会期中の7月22日には WAVA Meeting (informational) が開かれ、私はそこで Asian AVA の設立の経緯と目的について説明し、現在 WAVA の Regional Branch として認められている European AVA およびアメリカ獣医解剖学会（American AVA）と並んで、Asian AVA を WAVA の第三の Regional Branch として承認してもらうように要請を致しました。私の提案は大変好意的に受け止められ、満場一致で承認されました。ただし、今回は WAVA の定時総会ではなかったので、Asian AVA を WAVA の Regional Branch として正式に承認するのは、2008年にバンクーバーで開催される WAVA の総会においてであるとのことでした。しかし今回の WAVA Meeting は WAVA 会長の Dr. Freeman（ヴァージニア）および WAVA 事務局長の Dr. Stoffel（ベルン）による司会進行のもとで開催されたものですから、Asian AVA が WAVA の Regional Branch であることは、事実上今回の WAVA Meeting で承認されたものと考えていいと思います。また European AVA の総会で Dr. Stoffel が WAVA Meeting (informational) について報告した際には、今回最も重要なのは Asian AVA の設立報告だと言ってくれました。このような次第でしたので、私も遠くイタリアまで出かけていった甲斐があったと一安心しております。

European AVA そのものは、演題総数がポスター発表を含めて211題と、かなり大きな学会でした。参加者もヨーロッパ各国だけでなく、イラン、アメリカ、ニュージーランドなど様々な国から来ていました。発表内容についてははっきり言って玉石混交で、立派な内容のものもあれば、日本の学生による発表の方がはるかにいいと思われるものまでありました。全体として、私たちの獣医解剖学会のレベルは決して European AVA のレベルに劣るものではないという感想を持ちました。注目すべきは、European AVA では Fish Morphology が一つのジャンルとして確立しており、沢山の演題発表があったことでした。またこのジャンルでのイタリア人の発表において、免疫組織化学の抗体提供者が北里大学水産学部の先生であったことが印象に残りました。さらに、メッシーナには、今春のつくばでのシンポジウムで講演をしていただいたアメリカの Dr. Henry、ハンガリーの Dr. Sotonyi も見えていて、再会を喜びあいました。Dr. Sotonyi は2008年7月30日ー8月1日にブダペストで開催される第27回 European AVA の会長に決まっていて、日本からも沢山の参加者を期待している、との言付けを頼まれました。

今回の European AVA の運営については、毎日、Congress Program と Accompanying Persons Program が別建てで組まれていて、主催者がこの両方の面倒を見ていました。今回の参加者は同伴者も含めて200名前後だったと思うのですが、イタリア国外からの参加者はかなりの人達が夫人や子供同伴だったので、同伴者の世話も大変だったと思います。特にディナーは毎日同伴者を含めた全員が参加しましたので、非常に大掛かりなものでした。問題はディナーの時間で、参加者達は夕方一旦ホテルに戻り、それからバスに分乗してディナー会場に向かったのですが、開始時間は午後8時前後、終るのは午前0時前後、ある時にはホテルに戻ったら午前1時を過ぎていたことさえありました。それでいて学会は毎日午前8時半前後には始まっていたのですから、スケジュールとしてはかなりハードなものでした。いい経験をさせてもらったと思っております。

さて来年には、タイのバンコクで第2回 Asian AVA が開催されますが、私がメッシーナで何人かの参加者に打診したところ、バンコクに行きたい、と言う人達が何人もいました。 WAVA 会長の Dr. Freeman、同事務局長の Dr. Stoffel、ハンガリーの Dr. Sotonyi も出席したいと言っていました。私としても沢山の WAVA の会員がアジア各国に限らず世界各地から第2回 Asian AVA に参加してくれれば、大変嬉しいことだと考えております。来年の Asian AVA はいまのところ9月14日ー17日に開催される予定ですので、日本からも是非沢山の方々が参加し、世界各国の獣医解剖学者と親交を深めていただきたいと思います。また、まだ WAVA の会員になっておられない方々はこの機会に是非とも会員になっていただくことをお願い致します。

（平成18年8月22日記）

＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞

日本獣医解剖学会役員選挙について

選挙管理委員会委員長　月瀬　東

日本獣医解剖学会役員（任期：平成18年4月～平成21年3月）選挙の開票が平成18年3月3日に東京大学農学部で行われました。次期役員には下記の先生方が就任されました。ご協力に感謝いたします。（敬称略）

会長：　谷口　和之（岩手大）
副会長　（会計兼務）：　九郎丸　正道（東大）
副会長：　昆　泰寛（北大）

庶務: 木曾 康郎(山口大)、竹花 一成(酪農大)
広報: 眞鍋 昇(東大)
監事: 月瀬 東(日大)、上原 正人(鳥取大)
理事: 北村 延夫(帯広大)、有嶋 和義(麻布大)、福田 勝洋(名大)、武藤 顕一郎(北里大)、橋本 善春(北大)、佐藤 英明(東北大)、神田 尚俊(農工大)、山本 雅子(麻布大)、小川 和重(大阪府大)、鈴木 秀作(鹿児島大)、北川 浩(神戸大)、尼崎 肇(日獣大)、星 信彦(神戸大)、杉田 昭栄(宇都宮大)
オブザーバー:阿閉 泰郎(岐阜大)、村上 隆之(宮崎大)、山口 高弘(東北大)

＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞

ヨーロッパ獣医解剖学会(EAVA)の活動について
−今後のアジア獣医解剖学会(AsAVA)の発展を目指して−

北大獣医学研究科 橋本善春

本年3月、「アジア獣医解剖学会(AsAVA)」が設立されました。アジア諸国の多くの獣医解剖学者の方々の設立にかける熱意と、今後のアジア地域における獣医解剖学研究・教育発展の地域的基盤を確立したいとする努力が結実したものとして、AsAVA の設立を大いに喜びたいと思います。

さて将来に向けて AsAVA に期待しながら、多くの国々の参加を求めつつ、具体的にそれをどの様な形で運営し、アジア特有の経済的事情を含む多くの課題を乗り越え、加えてそれを活力溢れる学術組織として永続させるにはどのような道をとるのが良いのでしょうか。その一つの例としてヨーロッパ諸国の獣医解剖学者の組織として歴史をもつ「ヨーロッパ獣医解剖学会(EAVA)」の組織運営と、これまでのその活動状況が大いに参考になるものと思われます。そこで、以下に EAVA 会員として筆者がこれまでに参加したヨーロッパ各国獣医科大学で開催された EAVA の組織構成や、Congress (学術研究集会)の歴史、および Congress 開催のプロセスなどについて述べたいと思います。

ヨーロッパの獣医解剖学者の組織ですからその歴史は大いに古いと思われがちですが、EAVA は 1961 年 9 月ウイーン獣医科大学で開催された第5回 WAVA Congress 時にその設立が提唱され、1964 年4月の同地ウイーンにおける第 60 回「ヨーロッパ解剖学会」に合わせて設立総会が開催されています(EAVA Home Page: www.wava-amav.org)。第二次世界大戦後 15 年近くを経てから設立された学会であり、獣医解剖学会という小さな学術分野にも戦後の様々な混乱が影を落としていたのでしょう。そしてその後 EAVA Congress は、設立以来 1980 年まで毎年開催されて来ましたが、1982 年からは隔年開催となり、1984 年以降は以下の各国の獣医科大学で開催されて来ました[Utrecht (Holland, 1984), Budapest (Hungary, 1986), Regensburg (West Germany, 1988), Leipzig (Germany, 1990), Ghent/Antwerp (Belgium, 1992), Zuerich (Switzerland, 1994), Lugo (Spain. 1996), Naples (Italy, 1998), Olsztyn (Poland, 2000), Brno (Czech, 2002), Oslo (Norway, 2004), Messina (Italy, 2006)]。筆者は Naples における Congress (1998)以来 EAVA の学会活動に参加し、その活動状況をつぶさに見ることが出来ました。

設立時からの EAVA 活動の骨子として、ヨーロッパ各国の獣医解剖学者間の相互協力の促進や最新の研究情報の交換、各国の獣医解剖学教育法や解剖手技、カリキュラム等についての検討、およびそれらについての情報交換などがあります。当時は現在のような英語による討議がとても困難で、各国で使用する言葉の違いもあって、解剖学上の情報交換がとても困難であったのでしょう。1966 年に 85 名であった会員数も 1996 年以降には 270 名を越え、現在ではヨーロッパ域内31ヶ国、ヨーロッパ域外13ヶ国からの獣医解剖学者が参加しています。因みに現在の最多会員数国はドイツで 54 名、スペインが 37 名、イタリアが 15 名と続き、域外のトルコ 7 名、エジプト 6 名、また日本、インド、ニュージーランドからも各1名の会員が参加しています。会員数が思いのほか少ないと思われるかも知れませんが、EAVA の主な会員は獣医大学に席をおく解剖学教員と大学院生からなっており、獣医学生の会員はごく少数です。EAVA への入会希望者はヨーロッパ諸国に限定されず、総ての国の解剖学に関係する方々の入会が可能です。年会費は毎年 10 ユーロ(1,500 円程度)で Congress 会場の受付へ、または各会員の所属国が異なる事情もあって、ユーロ立てによる学会口座への納入も可能となっています。あなたも WAVA のほか EAVA の会員になって、ヨーロッパ仕様の学会で大いに活躍してみませんか?

EAVA の Executive Committee Members として現在(July 2006 時点)、President 1 名(Prof. A. Cecio, Naples, 任期4年)、Vice-President 1名(Prof. M. Lakomy, Olsztyn, Poland, 任期4年再任可)、General Secretary1名(Prof. M. Stoffel, Bern, 任期4年再任可)、Treasurer (Prof. Augsburger, Zuerich, 任期4年再任可)がその席にあり、これらのメンバーは会員による選挙で選出されています。このほか将来に向けての EAVA 活動の在り方の検討や、その活性化を図ることを主眼に 2002 年の総会時に提案・導入された若手獣医解剖学者による小委員会(Representative of the Younger Members, Dr. C, Muelling, Berlin)が設けられています。今後の学術集会の在り方や eLearning システムを導入した新たな解剖学教育方法の開発などについて論議を続けており、その結果を総会時に公表して会員への周知と協力を求めています。

このように EAVA Congress は、広くヨーロッパ域内の各国獣医科大学で開催されて来ましたが、次期の開催地の決定は自由な立候補制によっています。通常2年前の Congress 開催時に次期開催地名(開催校)、開催日時、Organizing Committee, 会期中のスケジュール(Oral and Poster Presentation, Welcoming Party, Gathering photos of the participants, small tours, Lunch, Dinner, Coffee break, Accompanying person's program, General assembly, Congress banquet, Hotel reservation, Transportation, Financial support)などが会員に諮られ、会員の総意によって次期開催地を決定する方法がとられています。

2005 年から EU は新たに東欧のハンガリーや北方のリトアニアなどを含む 25 ヶ国体制となりました。2000 年から EU 諸国の獣医学教育カリキュラムが統一されたことにより、経済規模の小さな新たな EU 加盟国においても、只今獣医学教育カリキュラムの整備が急がれています。現在EU各国間にみられる経済規模の格差は、急速に発展するアジア地域においても同様に見られるものですが、今後アジア各国の会員にはそれぞれの国の獣医解剖学会の拡充に力を注いでいただきながら、上述の EAVA 運営の歴史と方法を参考にしていただき、AsAVA の継続開催と内容の一層の充実、インドやオーストラリアなど加盟国の拡大策、そして経済的基盤の整備策などを検討・実施していただきたいと願っています。

今回の私どものアジア地域におけるAsAVA設立を受けて、いよいよWAVAの中から次にアフリカ地域における獣医解剖学会、すなわちAfrican AVAの設立を希望する声が出され始めました。これはWAVAのより新たな解剖学教育への貢献の一つと感じられます。アジア地域にも増して大きな経済的格差を抱えるアフリカ諸国においても、獣医解剖学教育の充実は同様に重要です。これを契機に近い将来アフリカ地域に新たな獣医解剖学者のための学会組織が胎動を始めることになるかも知れません。今後その動きをAsAVAの一

会員として応援しつつ、つぶさに見守って行きたいと考えています。

＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞

◇ 第142回日本獣医学会学術集会案内 ◇

A. 日本獣医解剖学会

一般演題

9 月22日(金)第9 会場

演題番号 A-01～42(9:00～17:00)

9:00～9:30 浅利昌男 (麻布大)

A-01 動物を犠牲にしない獣医学教育の実践 – EUの獣医学教育 ○橋本善春1、昆 泰寛1、奥村正裕2、伊藤茂男3 (1北大・獣医・解剖、2北大・獣医・獣医外科、3北大・獣医・薬理)

A-02 近交系ラット"F344"群を下顎骨からみると ○田中 愼 (国立長寿セ・加齢動物育成室)

A-03 ジャワマメジカの骨格系 ○福田勝洋1、遠藤秀紀2、佐々木基樹3、木村順平4 (1名大・生命農・動物形態、2京大・霊長研、3帯畜大・畜産・獣医解剖、4日大・生物資源・獣医解剖)

9:30～10:00 國分啓司 (山口大)

A-04 新規に樹立した腸管上皮細胞の活用によるM細胞分化誘導系の開発 ○金谷高史、麻生 久、宮澤光太郎、高倉郁朗、井谷 航、北澤春樹、渡邊康一、大和田修一、山口高弘 (東北大学大学院・農・機能形態学)

A-05 ラットの膀胱におけるEphB/ephrin-Bの発現と局在 ○堀田名保恵、中島崇行、小川和重 (大阪府大・生命環境・獣医解剖)

A-06 STZ投与後のラット胎子膵島の回復について ○大嶋 篤、山本雅子、西川 修、有嶋和義 (麻布大)

10:00～10:30 吉岡一機 (北里大)

A-07 コラーゲンペプチド投与によるウシの蹄冠および趾間皮膚に対する効果 ○阿部 敬、永易 彩、渡辺敬文、保坂善真、植田弘美、竹花一成 (酪農大・獣医解剖)

A-08 マウス乳腺の生殖周期における分化増殖関連因子の発現動態 ○長井優子、松元光春、矢吹 映、鈴木秀作 (鹿児島大・農・獣医解剖)

A-09 マウス乳腺の生後発達におけるERおよびPgRの局在 村上由佳1、○松元光春1、岡 達三2、矢吹 映1、鈴木秀作1 (1鹿児島大・農・獣医解剖、2鹿児島大・農・獣医生理)

10:30～11:00 柴田秀史 (農工大)

A-10 ニワトリにおける脊髄小脳路線維の小脳投射分布 ○古江正人、上原正人、今川智敬 (鳥取大・農・獣医解剖)

A-11 ラット海馬神経細胞におけるischemic postconditioning処置の虚血傷害軽減効果について ○小田千夏子、小川和重、中島崇行 (大阪府大・生命環境科学・獣医解剖)

A-12 Qualitative and quantitative studies of the inferior olivary complex in the egyptian waterbuffalo (Bos bubalis) ○Rashed Reda1、篠崎 綾1、今川智敬2、上原正人2 (1山口大・連合獣医学研究科、2鳥取大・農学部)

11:00～11:30 谷口和美 (北里大)

A-13 ラット視覚皮質から顆粒性膨大後皮質への投射 ○小串直見1、神田尚俊1,2、柴田秀史1,2 (1農工大・農・獣医解剖、2農工大・共生科学技術研究院・動物生命)

A-14 ラットの迷走神経近位および遠位神経節におけるASICサブユニットの分布 ○関 佳代子、山本欣郎、谷口和之 (岩手大・農・獣医解剖)

A-15 アフリカツメガエルの脳における神経細胞特異的蛋白質NeuNの局在について ○齋藤正一郎、阿閉泰郎 (岐阜大・応用生物科学・獣医解剖)

11:30～12:00 佐々木基樹 (帯畜大)

A-16 ヒヨコ網膜節細胞の形態的分類と視覚中枢との関係 ○棚田有紀子1、陳 耀星2、内藤順平1 (1帝京科学大学・アニマルサイエンス学科、2中国農業大学・動物医学院)

A-17 羊の網膜における視神経細胞と視細胞の分布およびこれらと輝板の関係 ○篠崎 綾1,2、上原正人2、今川智敬2 (1山口大・連獣・基礎、2鳥取大・農・獣医解剖)

A-18 アテロコラーゲンゲルを用いた角膜損傷部修復過程の形態学的解析 ○永易 彩1、山崎亜矢子2、都築圭子2、泉澤康晴2、竹花一成1 (1酪農大・獣医解剖、2酪農大・伴侶動物医療)

13:00～13:30 斉藤正一郎 (岐阜大)

A-19 ラット下垂体におけるアクアポリンの発現 ○桑原佐知、前田誠司、田中宏一、早川 徹、関 真 (兵庫医大・解剖学第一)

A-20 下垂体前葉ホルモン産生細胞の活動とc-Fos発現 ○瀧上周、屋代 隆 (自治医大・医・組織学)

A-21 甲状腺ホルモン欠乏に伴う肺の形態学的変化 ○檀上浩平、辻尾祐志、綿引芳恵、吉岡一機、谷口和美、武藤顕一郎 (北里大・獣医解剖)

13:30～14:00 金井克晃(東大)

A-22 C3Hマウス中脳における性分化に関する研究 ○谷田任司1、塚原伸治2、割田克彦1、石原可奈1、福井志穂1、三觜友子1、湯地みどり1、大西佐知子1、稲元哲朗1、北川 浩1、星 信彦1 (1神戸大・院自然科学、2国立環境研・生体防御)

A-23 7種の系統マウスにおけるrRNA遺伝子座の同定と減数分裂の対合解析への応用 ○片上富男、柴田秀史、神田尚俊 (農工大・農・家畜解剖)

A-24 マウス性腺の発生におけるStARタンパクの局在と性差 ○福井志穂1、菅原照夫2、割田克彦1、谷田任司1、石原可奈1、三觜友子1、湯地みどり1、大西佐知子1、稲元哲郎1、北川 浩1、星 信彦1 (1神戸大・院自然科学、2北大・医・分子生化)

14:00～14:30 中牟田信明 (九歯大)

A-25 In vivo 及びIn vitro試験によるDi-iso-butyl phthalate(DIBP)の精巣毒性の検討 ○祝 暁波、Tat Wei TAY、Bibin Bintang ANDRIANA、崔 恩京、恒川直樹、金井克晃、九郎丸正道 (東大・獣医解剖学教室)

A-26 経胎盤的ビスフェノールA暴露が器官形成期のマウス胎仔におけるアリルハイドロカーボン受容体とその関連因子および生体異物代謝酵素の発現におよぼす影響 ○西澤華子1、眞鍋昇2 (1京大院・農、2東大・院農生科)

A-27 2,3,7,8-tetrachlorodibenzo-p-dioxin(TCDD)雄親曝露による次世代性比への影響 ○石原 可奈1、大迫誠一郎2、割田克彦1、谷田任司1、福井志穂1、三觜友子1、湯地みどり1、大西佐知子1、稲元哲朗1、北川 浩1、星 信彦1 (1神戸大・院自然科学、2東大・医・疾患生命工学センター)

14:30～15:00 木村順平(日大)

A-28 RhoA活性化マウスにおけるPGCの移動の解析 ○中村 愛、原 健士朗、的場章悟、恒川直樹、金井克晃、九郎丸正道 (東大・獣医解剖学教室)

A-29 胎生期DES投与が雄の視床下部-下垂体系へ及ぼす影響 ○小林徹央、山本雅子、西川 修、有嶋和義 (麻布大)

A-30 妊娠後期のマウス胎盤と卵黄嚢におけるオーファン受容体GPRC5Bの局在 ○今西 哲1、久米新一1、杉本実紀1、眞鍋昇2 (1京大・農・生体機構、2東大・農学生命・高等動物研究教育センター)

15:00～15:30 恒川直樹（東大）

A-31 MRLマウス精巣内卵細胞の出現頻度　○大塚沙織1、今野明弘1、橋本善春1、佐々木宣哉2、遠藤大二3、昆　泰寛1（1北大・獣医解剖、2北大・獣医実験動物、3酪農大・獣医放射線）

A-32 クロミンククジラ（Balaenoptera bonaerensis）における胎盤および非妊娠子宮の形態学的および免疫組織化学的研究　○天野容子1、佐々木基樹1,2、石川　創3、茂越敏弘3、大隅清治3、手塚雅文4、宮本明夫5、福井　豊4、坪田敏男2,6、北村延夫1,2（1帯畜大・獣医解剖、2岐阜大・院連合獣医、3（財）日本鯨類研究所、4帯畜大・畜産科学科、5帯畜大・院畜産衛生、6岐阜大・野生動物）

A-33 マウスの子宮上皮で同定された新規分子に対する白血病阻止因子LIFの影響　○入江宏美1、本道栄一1、Stewart Colin2、木曾康郎1（1山口大・農・獣医解剖、2National Cancer Institute・Cancer and Developmental Biology Laboratory）

15:30～16:00 御船弘治（久留米大）

A-34 ウマ卵巣の3次元内部構造顕微鏡による観察（続報）　○木村順平1、平野悠子2、竹本智子3、中村佐紀子4、姫野　龍太郎4、三島健稔3、南保泰雄5、横田秀夫4（1日大、2帯畜大、3埼玉大学、4理化学研究所、5JRA）

A-35 ヤギ胎盤節の浅層、中間層、深層における二核細胞　○杉山真言、塚本　篤、本道栄一、木曾康郎（山口大・農・獣医解剖）

A-36 食虫目スンクス(Suncus murinus)の胎盤形成に関する形態学的研究　○寺川純平、本道栄一、木曾康郎（山口大・農・獣医解剖）

16:00～16:30 添田　聡（日獣大）

A-37 ハシブトガラスの飛翔筋における筋線維型と筋中遊離アミノ酸　○杉田昭栄1、萩原綾子1、青山真人1、田中秀幸1（1宇都宮大学・農学部、2宇都宮大学）

A-38 筋腱接合部のコラーゲン細線維の構造特性について　○渡辺敬文1、今村保忠2、保坂善真1、植田弘美1、竹花一成1（1酪農大・獣医解剖、2工学院大・応用化学）

A-39 腱炎に対するコラーゲンオリゴペプチドの効果　巡　夏子、美名口　順、渡辺敬文、保坂善真、植田弘美、○竹花一成（酪農大・獣医解剖）

16:30～17:00 下川哲哉（愛媛大）

A-40 骨格筋におけるミオスタチンのインスリン様成長因子発現に対する作用　○三宅雅人、林　晋一郎、小笠原英毅、武田賢和、渡邊康一、大和田修一、麻生　久、山口高弘（東北大・農・機能形態）

A-41 ラット頚動脈小体におけるTASK1およびTASK3の低酸素曝露による発現増強　○吉川紀江1、山本欣郎1、若井　淳1、原澤亮2、谷口和之1（1岩手大・農・獣医解剖、2岩手大・農・獣医微生物）

A-42 ラット胎子動脈管のインドメタシンに対する感受性（第三報）　○有嶋貴義1、白井明志2、山本雅子1、西川　修1、赤堀文昭2、有嶋和義1（1麻布大・解剖学第二、2麻布大・薬理学）

9 月23日（土）第9 会場

演題番号 A-43～73（9:00～15:10）

9:00～9:30 塚本康浩（大阪府大）

A-43 イヌ顎関節の軟骨組織に含まれる複合糖質の組織化学的研究　○広部真智、保坂善真、植田弘美、竹花一成（酪農大・獣医解剖）

A-44 ニホンザルの肩・肘関節における骨格筋の定量化と機能形態学的解析　○大石元治1、遠藤秀紀2、浅利昌男1（1麻布大・獣・解剖、2京大・霊長研・形態進化）

A-45 ウマ浅指屈筋腱細胞の性状は存在部位によって異なる　○浦辻雄央1、保坂善真1、桐沢力雄2、植田弘美1、竹花一成1（1酪農大・獣医解剖、2酪農大・獣医微生物）

9:30～10:00 保田昌宏（宮崎大）

A-46 マウスの固有胃腺，幽門腺，十二指腸におけるEphB/ephrin-B発現　○武本奈津枝、中島崇行、小川和重（大阪府大・生命環境・獣医解剖）

A-47 母体の副腎除去が胎子膵臓の発達に及ぼす影響　○橋本知水、山本雅子、西川　修、有嶋和義（麻布大）

A-48 人為的冬眠下のクサガメ(Chinemys reevesii)膵臓における形態学的研究　○武藤顕一郎1、藤木省志1、吉岡一機1、辻尾祐志1、綿引芳恵1、谷口和美1、Sotthibandhu Pongsiwa1、大野秀樹1、中島尚志2（1北里大・獣医畜産学部獣医解剖学教室、2下館動物病院）

10:00～10:30 山本欣郎（岩手大）

A-49 イヌの食道における粘膜筋板の形態学的研究　○吉田　愛、保坂善真、植田弘美、竹花一成（酪農大・獣医解剖）

A-50 ウシの回腸を支配する外来性神経細胞の局在　○大森保成1、阿閉泰郎2、齋藤正一郎2、上野博史3、猪島康雄4、石黒直隆4（1名大・生命農学・動物形態、2岐阜大・応用生物・獣医解剖、3岐阜大・応用生物・獣医臨床放射線、4岐阜大・応用生物・食品環境）

A-51 マウスの胃におけるghrelinの生後発達　○白木亮太朗1、矢吹　映1、田原口智士2、松元光春1、鈴木秀作1（1鹿児島大・獣医解剖、2鹿児島大・獣医微生物）

10:30～11:00 加納　聖（東大）

A-52 アンチセンスエクソヌクレアーゼ1遺伝子導入マウスに出現した多嚢胞腎症　○昆　泰寛1、今野明弘1、橋本善春1、佐々木宣哉2、遠藤大二3（1北大・獣医解剖、2北大・実験動物、3酪農大・獣医放射線）

A-53 遺伝性腎疾患ICGNマウスの尿細管間質線維芽細胞の活性化にSmad4蓄積に起因するTGF-b1への過剰反応が関与する　後藤康文1、松田二子1、内尾こずえ2、小倉淳郎3、李　俊佑1、○眞鍋　昇1（1東大・附属牧場、2医薬基盤研、3理研）

A-54 ネフローゼマウス(ICGN系統)の糸球体上皮細胞分化について　○山田こずえ1、吉岡英代1、國枝孝典1、高野　薫1、眞鍋昇2（(1 独)医薬基盤研究所・実験動物開発研究室、2東大・農学生命科学研究科）

11:00～11:30 前田誠司（兵庫医大）

A-55 シリアンハムスターの腎臓の組織構造における精巣・卵巣摘出およびテストステロン投与の影響　○片野史子、矢吹　映、松元光春、鈴木秀作（鹿児島大・獣医解剖）

A-56 MRL/MpJマウス由来コンジェニックマウスに出現する自己免疫性糸球体腎炎　○市居　修、今野明弘、橋本善春、昆　泰寛（北大・獣医解剖）

A-57 マウス腎臓におけるネフロン形成とhepatic nuclear factor 4 alpha(HNF4α)の関連　○金澤智則、今野明弘、橋本善春、昆泰寛（北大・獣医解剖）

11:30～12:00 今野明弘（北大）

A-58 犬および猫の腎臓におけるシクロオキシゲナーゼ-2およびNO合成酵素-1の発現　○矢吹　映1、遠藤泰之2、藤木　誠3、三好宣彰4、松元光春1、鈴木秀作1（1鹿児島大・獣医解剖、2鹿児島大・獣医内科、3鹿児島大・獣医外科、4鹿児島大・獣医病理）

A-59 ラット胎子動脈管の開存に寄与するNOとeNOS遺伝子発現及

び副腎皮質ホルモンの関与　○山名　怜、犬飼直人、林　隆大、池田義則、田中和明、滝沢達也（麻布大・獣医学部・動物工学）

A-60 ラット新生子肝臓における一酸化窒素(NO)産生量の変動とその産生機序　○犬飼直人1、山名　怜1、佐久間弘典2、池田義則1、田中和明1、滝沢達也1（1麻布大・獣医学部・動物工学、2独立行政法人　家畜改良センター・技術部）

13:00～13:30 矢吹　映（鹿児島大）

A-61 ウシの多脾症について　○黒島稔也、村上隆之（宮崎大・農・家畜解剖）

A-62 羊空腸および回腸パイエル板リンパ濾胞内B細胞レパートリーの解析　○保田昌宏1,2、Craig Jenne2、Laurie Kennedy2、John Reynolds2（1宮崎大・農・家畜解剖、2カルガリー大・医・免疫学研究グループ）

A-63 ウシの無脾・小脾症候群　○岡田一夏、村上隆之（宮崎大・農・家畜解剖）

13:30～14:00 小川健司（理研）

A-64 造血機能の破壊-修復時での脾臓および骨髄血管内皮細胞におけるMAdCAM-1の発現　○多田達哉1、蛭薙観順2、福田勝洋1（1名大院・生命農学、2名大・博物館）

A-65 SAMP1/Yitマウスの臓器内脈管周囲におけるTリンパ球浸潤と接着因子の発現　○帖佐瑞希1、市原信恒1、浅利昌男1、松本　敏2、船橋英行2、添田　聡3、尼崎　肇3（1麻布大・解剖学第一、2ヤクルト中央研究所、3日獣大・獣医解剖）

A-66 ラット消化管粘膜における常在細菌の定着と粘膜リンパ小節との関係に関する定量組織学的研究　○山本健吉、陳　慶義、斉　旺梅、稲元哲朗、湯地みどり、大西佐知子、割田克彦、星　信彦、北川　浩（神戸大・院自然科学）

14:00～14:30 佐加良英治（九歯大）

A-67 甲状腺摘出ラットに認められた心臓の形態学的変化　○辻尾祐志1、綿引芳恵1、堀　泰智2、吉岡一機1、谷口和美1、武藤顕一郎1（1北里大・獣医解剖、2北里大・小動物第3内科）

A-68 ウシの冠状動脈肺動脈起始の解剖学的観察　○田中明希子、村上隆之（宮崎大・農・家畜解剖）

A-69 1例の子ウシに認められた一次口遺残を伴わない房室中隔欠損　○村上隆之1、津田茂浩2（1宮崎大・農・家畜解剖、2宮崎県都城農共済）

14:30～14:50 今川智敬（鳥取大）

A-70 趾乳頭腫症Papillomatous Digital Dermatitis(PDD)の皮膚構造と痛覚過敏の原因について　○田中健介、保坂善真、植田弘美、竹花一成（酪農大・獣医解剖）

A-71 ニホンイモリCynops pyrrhogasterの嗅上皮感覚細胞におけるGoおよびGolfの発現に関する研究　○添田　聡1、宮崎雅雄2、伊豆弥生3、神谷新司1、斉藤　徹4、谷口和之5、尼崎　肇1（1日獣大・獣医解剖学、2理研・フロンティア、3東医歯科大・難治研、4日獣大・比較動物医学、5岩手大・獣医解剖）

14:50～15:10 植田弘美（酪農大）

A-72 ラット胎生期における舌、口蓋上皮と嗅上皮の発達　○谷口和美、Sotthibandhu Pongsiwa、辻尾祐志、綿引芳恵、吉岡一機、武藤顕一郎（北里大・獣医解剖）

A-73 Activin Aはマクロファージのalternative activationを誘導するTh2サイトカインである　○小川健司、舟場正幸、辻本雅文（1理研・フロンティア、2麻布大・獣医、3理研・フロンティア）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

サテライトフォーラムは今回実施いたしません。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

懇 親 会 案 内

日時：平成18年9月23日　18時30分開宴

場所：湯田温泉ホテルタナカ　http://www.tanakahotelg.co.jp/yuda/

会費は以下の通りです。

教授　1万8千円、助教授・講師　1万6千円、助手　1万4千円、ポスドク　1万3千円、社会人　1万6千円、学生(院生を含む)　8千円

一泊朝食、宴会、二次会費用込み。

宴会のみ（職階等に関係なく一律6千円）

会費は、当日会場にてお支払い下さい（デスクを用意いたします）。23日は学会会場からホテルまでのマイクロバス、翌24日は宇部空港行きのマイクロバスをご用意致します。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日本獣医解剖学会理事会】

日本獣医解剖学会理事会

日時：平成18年9月23日（土）12:00－13:00

場所：山口大学　第9会場（獣医解剖学会の会場）

議題（理事会は総会と同じ議題について審議します。）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日本獣医解剖学会総会】

獣医解剖学会学術集会終了後

日時：平成18年9月23日（土）獣医解剖学会学術集会終了後

場所：山口大学　第9会場（獣医解剖学会の会場）

議題

1. 獣医解剖学会名誉会員の推薦について
2. 第2回アジア獣医解剖学会の開催について
3. 獣医組織学第4版の出版について
4. 会員名簿の発行について
5. その他

報告

1. 第26回欧州獣医解剖学会および WAVA Meeting (informational) について
2. 獣医学会平成19年春期学術集会企画委員会について
3. 獣医解剖学会平成19年春期学術集会について
4. その他

「なお、総会において、本年の春期学術集会において奨励賞（学部学生部門）を受賞された東京農工大学の森下享さんの表彰を行います。ご本人あるいは関係者の出席をお願いいたします。」

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

◎日本獣医解剖学会奨励賞の決定と表彰式について

つくば国際会議場（エポカルつくば）で開催された第 141 回獣医学会において日本獣医解剖学会奨励賞に一般部門0名、学部学生部門 4 名のエントリーがあり、上原正人（鳥取大）、福田勝洋（名大）、竹花一成（酪農大）の 3 名の選考委員で選考し、下記のとおり各賞が決定されました。

日本獣医解剖学会奨励賞

・一般部門

該当者なし

・学部学生部門

第4号　森下　享（東京農工大学）

「Conservation of ancestral rRNA locus in the seven species of old world monkey」

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

解剖学会奨励賞受賞者 「喜びの声」

・ 学部学生部門 森下 享 (東京農工大学)

この度卒業論文で選んだテーマで思いもかけず奨励賞を頂くことになり大変感謝しております。解剖学研究室での、私の当初の研究テーマは「霊長類における rRNA 遺伝子座の多型解析」でした。しかし FISH 法で調べた新世界サル7種は、すべて染色体上の rRNA 遺伝子座が1カ所しかなく、遺伝子座多型の研究には使えないことが明らかになりました。これまで研究室では先輩がマウスとヒトの rRNA 遺伝子座の多型解析をしており、その結果から rRNA 遺伝子の起源となった遺伝子座が同定できるのではないかと考え、染色体ペイントプローブを用いて遺伝子座を欠如する染色体の同定を行ってきました。そこで、7種のサルの rRNA 遺伝子座が進化的に見て共通の染色体上にあるのかどうか、ヒトの染色体ペイントプローブを用いて調べてみました。その結果、7種のサルすべてがヒトの第22番染色体DNAと連鎖していることが明らかになりました。この予想外の結果から、ヒトの5カ所の rRNA 遺伝子座の起源は22番染色体にあり、少なくとも霊長類では現在でも rRNA 遺伝子座がヒト22番染色体の大部分を占めるDNAセグメントと連鎖している事が明らかになりました。そこで、さらに、この様な連鎖が霊長類以外でも存在するのかどうかマウスを始め他の哺乳動物で調べようとしましたが、現在市販の染色体ペイントプローブ(中身が何かは不明です)は、以前市販されていたプローブと違い、近縁ではない異種の哺乳動物の染色体に対してはクロスハイブリダイズしなくなっており、独自のプローブを持つ必要性を強く感じております。

今回の卒論は、予想外の結果から予想外の結論になり、研究のおもしろさを体験するいい機会になりました。今後もこの経験を生かしてゆきたいと思っております

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

第141回日本獣医学会春期学術集会ポスターセッション
ベストプレゼンテーション賞受賞者 「喜びの声」

受賞者1:保坂 善真(酪農学園大学)

演題名:Cellular response to TNFalpha and signaling events mediated by TNF-Rs in tendinocytes

この度はこのような賞をいただき、誠に嬉しく光栄です。選考の際に私の発表ポスターをご推挙いただいた多くの先生にこの場を借りて厚くお礼申し上げます。今回の発表内容は、昨年末にまとめた学位論文の一部です。まったく思いがけない受賞で、学位論文がこのような形で認められたことは学位授与と並んで二重の喜びです。この発表は、私一人で到底できるものではなくご指導やご協力をいただいた多くの方々の存在も大きかったことは言うまでもありません。

「百聞は一見にしかず」という言葉があります。組織や細胞のカタチで結果を表現できることは、形態学を究める者には大きなアドバンテージだと思います。これからもこの言葉を心に留めて、目で見た誰もが納得できる研究・発表を続けていきたいと考えております。

最後になりましたが、今後も獣医学の発展に貢献できる研究をしたいと考えておりますので、会員の皆さまからのご指導とご助言をよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

受賞者2:石井 麻由子(東京大学)

演題名:Analysis of differentiation potency of donor XY germ cells in mouse XX/*Sry* testes

この度は、第141回日本獣医学会春期学術集会ポスターセッションにおいてベストプレゼンテーション賞をいただき、大変光栄に思っております。ありがとうございました。

今回の受賞対象の研究テーマは、精巣決定遺伝子 Sry の機能を、成体における精子形成能という観点から考察するというものでした。Sry の機能はまだ十分には明らかにされておらず、また、精巣の複雑な形成メカニズムもまだ明らかになっていません。本研究で、ほんの一部ですが、それらのメカニズムの一端をつかめればと現在も実験を進めています。残り半年の学生生活でさらに深く勉強して行きたいと思っています。

最後になりましたが、今回の研究成果は、私一人によるものではなく、研究室の先生方ならびに諸先輩方のご指導、ご協力があって成し得たものです。この場を借りて深く感謝申し上げます。

＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞

第1回 Asian Association of Veterinary Anatomists (AVA)の総括

東京大学農学生命科学研究科 真鍋 昇

さる 2006(平成 18 年)3 月 19 から 21 日に第 1 回アジア獣医解剖学会学術大会(The 1st Asian congress on veterinary anatomical, histological and cytological sciences)がつくば市 つくばセンターにて開催されました(詳細はhttp:// www.jpn-ava.comをご覧になってください)。この学術大会の最終日 21 日(9:00-12:00)にアジア獣医解剖学会の設立総会として第 1 回アジア獣医解剖学会議(The 1st Conference of the Asian Association of Veterinary Anatomists:以下Asian AVA)が同所にて開催されました。同会議で、Asian AVAの定款、役員、学術会議、学術誌などについて討議され、参加者全員の合意のもとAsian AVA準備委員会が準備した原案が承認されました(これもhttp://www.jpn-ava.comをご参照ください)。同会議では、第2 回の会議と学術集会を 2007 年にタイ・バンコックで開催されることが決定されました。以下に同会議の式次第と招聘者の講演を報告します。

第１回アジア獣医解剖学会議

9:00−9:05: Opening and welcome remarks:

Drs. Masahito UEHARA (Tottori University) and Yoshihiro HAYASHI

9:05 − 12:00 Lectures:

Chair person: Dr. Kazuyuki TANIGUCHI (Iwate University)

9:05 − 9:25:

The education and research of veterinary anatomy in China

Dr. Yaoxing CHEN, Department of Veterinary Anatomy, College of Veterinary Medicine, China Agricultural University (Beijing, People's Republic of China)

9:25 − 9:45:

Teaching of veterinary anatomy in Korea

Dr. Heungshik S. LEE, Department of Veterinary Anatomy, College of Veterinary Medicine, Seoul National University (Seoul, Republic of Korea)

9:45 − 10:05:

Research fields of veterinary anatomy in Chungbuk national university, Korea

Dr. Sang-Yoon NAM, Research Institute of Veterinary Medicine and Department of Veterinary Anatomy, College of Veterinary Medicine, Chungbuk National University (Chungbuk, Republic of Korea)

10:05 −10:25:

The education and research of veterinary anatomy in Banglades

Dr. Mohammed Zahirul Islam KHAN, Department of Anatomy and Histology, Faculty of Veterinary Science, Bangladesh Agricultural University (Mymensingh, Bangladesh)

10:25 −10:45:

Veterinary anatomy education in Indonesian veterinary school: Present status and future recommendation

Dr. Srihadi AGUNGPRIYONO, Department of Anatomy, Physiology and Pharmacology, Faculty of Veterinary Medicine, Bogor Agricultural University (IPB) (Bogor, Indonesia)

10:44 −11:05:

Para Rubber Models for Veterinary Anatomical Teaching Aid

Dr. Teerasak PRAPONG, Department of Anatomy, Faculty of Veterinary Medicine, Kasetsart University (Bangkok, Thailand)

11:05 −11:25:

Veterinary anatomy in Thailand: Present position and future tendency

Dr. Worawut RERKAMNUAYCHOKE, Department of Anatomy, College of Veterinary Medicine, Kasetsart University (Bangkok, Thailand)

11:25 −11:45:

The education and research of veterinary anatomy in Japan

Dr. Kazuyuki TANIGUCHI, Laboratory of Veterinary Anatomy, Faculty of Agriculture, Iwate University (Morioka, Japan)

11:45 − 11:55:

General discussion

11:55 − 12:00:

Closing remarks: Kazuyuki TANIGUCHI (Iwate University)

＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞

学生の日本獣医学会（於：山口大学）
参加費（二千円）補助の件

・補助の条件

1) 学部生ないし大学院生で日本獣医解剖学会学生会員であること。

2) 今回の日本獣医学会／日本獣医解剖学会で筆頭著者として発表すること。
但し、他分科会で発表の場合は補助の対象としない。

3) 教員等、本人以外が代理発表した場合は、補助の対象としない。

・参加費の受け渡し

4) 日本獣医解剖学会理事会、懇親会、その他の折り、講座ごとにまとめて、指導教員が学生に代わって会計担当者（東大・九郎丸）より代理受給する。指導教員は責任をもって学生に支給する。

5) 補助対象の学生がいる場合は、9月19日までに会計担当者にメール等で学生の名前と学年を連絡しておく。

＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞

◇次回日本獣医学会案内◇

第143回日本獣医学会学術集会について

日時：平成19年4月3日（火）−5日（木）

場所：つくば国際会議場（茨城県つくば市）

主催：動物衛生研究所

・ 日本獣医解剖学会のプログラム

1）口演、会議

日時：平成19年4月3日（火）

9：00−11：00 解剖学シンポジウム（1）
「精巣を用いた発生工学の最前線」

11：00−12：00 解剖学教育講演
「2重蛍光標識マウスを用いた膵臓内分泌細胞の分化の分子機構」

12：00−13：00 獣医解剖学会理事会
弁当（お茶付き、税込み千円）を用意します。

14：00−16：00 解剖学シンポジウム（2）
「脳のストレス応答」

16：00−16：30 獣医解剖学会総会

場所：第3会場（つくば国際会議場1階大会議室102）

2）ポスター

日時：平成19年4月3日（火）

コアタイム：13：00−14：00
ポスター発表者は9：00頃までに発表会場で受付を行う。
展示撤去時間は17：00を予定。

場所：第9会場（つくば国際会議場2階中会議室202）

ポスターテーマ：

・泌尿生殖器の形態学の新展開
・消化器研究の形態学的アプローチ
・新たな循環器研究の展開
・形態学への分子生物学的応用
・神経形態学の新展開

3）日本獣医解剖学会懇親会

日時：平成19年4月3日（火）17：00−20：00

場所：つくば国際会議場内レストランエスポアール

会費：6，000円（学部生、院生3，000円）

＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞

2006 年度版獣医解剖学会会員名簿作成に関して

獣医解剖学会では隔年で会員名簿を作成しておりますが、今理事会の決定を受けて作成を開始します。

＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞

学会での検討事項について

・ 犬の解剖学実習のための献体制度に関連する調査報告（継続中）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

・「獣医解剖・組織・発生学用語―和英・英和索引―」(2000)を1冊2，500円で配布

「獣医解剖・組織・発生学用語―和英・英和索引―」(2000)を、学窓社から日本獣医解剖学会がまとめて購入し、会員の方々に1冊￥2，500で購入していただくことにいたしました（差額は獣医解剖学会が負担）。購入方法につきましては、下記をご参照下さい。

購入方法

1. **会員名と希望冊数（会員一人当たり2冊以内）を明記し、学窓社（koyama@gakusosha..co.jp）および東大・九郎丸（amkuroh@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp）宛に、同時にメールでご連絡下さい。**
2. 学窓社より会員宛に用語集が送付されます。
3. 購入者は秋の獣医学会（来春の獣医学会でも可）の折りに、1冊当たり2千5百円を九郎丸にお支払い下さい。（獣医解剖学会の銀行口座への送金でも可；みずほ銀行・根津支店普通預金、口座番号 1573764、口座名 獣医解剖学会 九郎丸正道 ジュウイカイボウガッカイ クロウマルマサミチ；但し送金手数料は本人負担）
4. 校費での購入を希望される場合は、メール連絡時にその旨を記載し、学窓社の口座に1冊当たり2千5百円を振り込んで下さい。振込先口座については、メール連絡の際、学窓社へお問い合わせ下さい。

＃送料の経費削減のため、複数の購入希望会員のいる研究室の場合は、研究室単位でお申し込み下さい。

＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞

人 物 往 来

☆ **松本 浩道氏**

東北大学大学院農学研究科動物生殖科学分野助手より宇都宮大学農学部動物生産学講座助教授に 2006 年 4 月 1 日付

＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞

日本獣医解剖学会会員名簿変更、追加について

2004 年 11 月に配付いたしました日本獣医解剖学会名簿に関して変更・追加等、御気付きの点がありましたら下記まで連絡ください。

酪農学園大学獣医学部獣医解剖学教室内
日本獣医解剖学会NL編集担当
069-0851 江別市文京台緑町 562-1
TEL: 011-388-4744
FAX: 011-388-4852
E-mail: takechan@rakuno.ac.jp

＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞

学 会 か ら の 出 版 物 案 内

「カラー獣医解剖学」の刊行について

編集委員長 橋本善春

ひと頃の酷暑の日々も去り、会員の皆様には益々ご健勝にてご活躍のことと遠察申し上げます。

近年、私どもの担当教育分野の中で大きな比重を占める肉眼解剖学では、臨床教育内容強化の動きから、臨床解剖学教育導入が期待されるようになりました。また学生が日頃から実習標本など数多くの解剖学資料に容易に接することを可能とするインターネットによる e-Learning やマルチメディアによる教育システム、また自然に近い感触をそなえたプラスチネーション標本などを活用して、出来る限り真実に近い解剖学情報を提供する教育スタイルなどが、すでに海外の獣医科大学では特に珍しいことではなくなりました。このような背景から「カラー獣医解剖学」は、従来の教育の中で不足がちであった、より自然で豊かなカラー色彩の解剖図を豊富に掲載する教科書としてウイーン獣医科大学とミュンヘン大学獣医学部の解剖学講座主任 H. E. Koenig 教授と H. G. Liebich 教授によって刊行されたものです。これまでに独語版（第 3 版、2005）、英語版（第 1 版、2006）が刊行されており、今回の日本語版の訳出作業と平行して、只今スペイン語版と韓国語版の訳出作業が進行中で、今後多くの国々で使用される教科書となります。

日本語版「カラー獣医解剖学」は、英語第2版（2007 年刊予定）に基づき翻訳刊行されるもので、この英語第2版では新たに臨床解剖学に関する第 19 章が書き加えられて、より内容の充実が図られました。そこで改めてこの教科書の特徴点は何かと問われれば、必要にして十分な美しい（生々しい？）色調のカラー臓器写真や組織像、イラスト図（計 1,037 図）にあると言えるでしょう。これらの臓器写真の多くは Koenig 教授が過去 40 年以上に亘る彼の研究教育活動の中で撮り貯めたもので、新鮮臓器標本あり、血管鋳型標本あり、プラスチネーション標本ありと、すべての標本のデティールを大切にしながら、彼愛用のライカ製の接写装置とエクタクローム 64 フィルム（コダック社）で撮影されたものです。筆者はしばしば彼の標本撮影に同席する機会を得ましたが、そこで彼の標本作製チームの技量の確かさや、彼自身の撮影センスの高さを羨ましく感じたことがありました。掲載されている各写真にはそれがとても良く反映されていると思います。

一方その記載文については、簡潔ではあるにしても十分に短いとは言い難いかも知れません。何しろ 700 頁を越える大著であり、手にもズシリと重い。それも彼らの博識ぶりが筆の動きを抑えるのを難しくさせたのかも知れません。しかし整然と細分された各項目の記載内容をみる時、その記載は簡潔であり、時として簡潔に過ぎると感じられるかも知れませんが、その項目内の重要な基本用語を文中にまとめて網掛けで表示するなど、理解しやすさへの工夫も随所に見られます。

装丁については、骨太の獣医学生が多いドイツ語圏で刊行された本書であれば、厚くて外観も見るからに立派そうです。しかし私たちの多くの学生の骨は太くもなく、短かめでもあるため、上・下巻の2分冊に分け、かつ高品位軽量紙を用いて極力軽量化を図る予定です。また提供価格については、その内容からみて破格の価格帯を実現している「獣医組織学」（日本獣医解剖学会編）に倣い、能う限りの低価格設定を出版社にお願いしているところです。

筆者は常々、解剖学研究者個々の努力によって世に送り出された解剖学標本類は、組織・発生学画像も含めて、いづれも教育資料として私達の貴重な共有財産であると考えています。そしてしばしば良質な教育資料作成には多くの方々の協力が不可欠です。この観点から今回の訳出作業には 50 余名の会員の皆様にご協力をお願いしました。幸い長期出張等の予定をお持ちの方々を除き、ほぼすべての方々からご承諾を賜ることが出来ましたが、このことは本書が祝福されながら誕生日を迎えることが出来るという幸せが約束されているようにも思えます。ともあれ、分担訳出者の方々には熱暑の中、訳出に奮闘されるお姿が目に浮かぶようで誠に感謝に堪えま

せん。現在奮戦中の皆様におかれましても、9月末の締切日をご勘案の上、早めに私宛に送稿いただけますと、今後の編集作業予定上、大変有り難く思います。重ねてどうぞよろしくお願い致します。

最後に、私どもの今後の解剖学教科書刊行のあるべき姿について考えてみたいと思います。教科書なるものは、本来各研究教育者が長い研究生活の中で培われた自己の独自の哲学を吐露する方法の一つとして、個人によって編み出されるものであると思います。「Handbuch der Vergleichenden Anatomie der Haustiere」(Ellenberger/Baum)のような大著であれば、複数の著者の綿密な協調によって編纂される場合もあると思います。しかしながら今回の「カラー獣医解剖学」の場合は、前述のように日本語版翻訳教科書として刊行することになりました。これには海外の同僚が著した良質の英語版教科書が存在したことや、訳出作業時に常時著者からの協力が得られることなどの幸運もありますが、日本の解剖学徒の一人である筆者としては、この刊行計画はあくまでも翻訳刊行であり、2nd choice に過ぎないものです。従来我が国で行われてきたこの刊行方法を直視すれば、安易な刊行方法であり、解剖学者としての主体性を欠くとの批判も可能です。

そこで欧州の獣医解剖学界を見ますと、概ね教授資格保有者(Habilitation授与者)、特に講座主任教授には伝統的に独自の教科書を刊行することが期待されています。それ故各獣医大学ごとに異なる解剖学教科書が使用されているという状況が生まれています。我が国には、かつて加藤嘉太郎先生による「家畜比較解剖図説」を始め幾つかのご高著が刊行され、多くの獣医師や畜産界を担う人材の育成に大いに貢献して参りました。今後はそれらの貴重な貢献を引き継ぐべく、我が国の獣医解剖学者の手になる新しい時代の要請に応える獣医肉眼解剖学書の刊行がすでに計画されるべき時期に来ているのではないかと考えています。

そこで稿を終えるにあたり、以下の提案を申し述べて、会員の皆様の専門的見地からご検討をお願いしたく思います。

1)・日本獣医解剖学会の新たな事業として、「獣医肉眼解剖学教科書刊行企画委員会」の設置をご検討いただき、同学会による肉眼解剖学書刊行計画の骨子を立案・推進していただきたいこと。

・紙の教科書のみならず、CD, DVD 等によるもの、本学会の Web site を活用するものなど、次世代の要望に応えられる刊行様式を検討していただきたいこと。

・原則として、解剖学に関わるすべての会員にご協力をいただけるよう、各人の専門分野を考慮して担当分野を決定していただくこと。

・解剖図の収集・作成には自ずと長い期間が必要であり、本計画には5年ないしそれ以上の期間が必要かも知れない。

2)本教科書刊行のため、および解剖学教育用の標本画像資料を蓄積・保存するために、JAVA Web site 内の Anatomy Imaging Library に各教室から随時解剖学画像を寄せていただきたいこと。肖像権等に配慮しながら各教室での教育活動にも利用可能としたい。

3)本事業計画には、近い将来アジア諸国の有力な獣医解剖学者の参加を願い、最終的には英語版や各国語版を加えたい。

上述の刊行計画を推進させることによって、我が国の獣医解剖学教育水準の一層の向上を図ることが可能になると思われます。このことは将来のAsian AVA, EAVA, およびWAVAとの研究・教育面の交流を一層押し進める上で、重要な活動の一つになるものと期待しています。

＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞

編 集 後 記

残暑お見舞い申し上げます。暦のうえではもう秋。時候の言葉に「処暑」というのがあり、8 月 23 日頃で、朝晩次第に冷気を覚える時分の意(新明解国語辞典より)だそうです。朝夕だけでも随分と過ごしやすくなりましたでしょうか。今夏は北海道も全く負けてはいません。とにかくあつい。「せっかく北海道に来たのに」、来道したツーリストは嘆いたことでしょう。しかし 6 月は雨天の日が多く、寒かった。本来なら梅雨がなく大変過ごしやすい筈の時季に。「いつ暑くなる？」から「いつ雨は降る？」「いつになったら涼しくなる？」いつしか心配事が変っていました。追い討ちをかけるように駒大苫小牧旋風が北海道を、いや日本中を大変熱くしてくれました。我らの北海道日本ハムファイターズムも凄いです。

ところで、学会での検討事項に「犬の解剖学実習のための献体制度に関連する調査報告」があります。各大学で実習に使用する犬を確保するにあたり、どのような取組みがなされているかを伺い知ることができ、報告が待ち遠しく、大変興味津々です。編集子の教室でも附属動物病院に依頼して犬の献体を試みたことがあります。飼い主さんには、残念ながら受入れてもらうことが出来ませんでした。越えなければならない高いハードルが幾つもあるでしょうが、献体制度を獣医学領域でも導入し早く定着してほしいものです。 編集子

＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞

MEMO

学窓社 新刊・解剖学会関連書籍案内

〒113-0024　東京都文京区西片 2-16-28
TEL 03-3818-8701　/ FAX03-3818-8704
ご注文と書籍の情報はhttp://www.gakusosha.comもご利用下さい。

新刊書籍

☆人と動物の間にはハテナがいっぱい！そんなハテナを楽しく学習。医学生，獣医学生，解剖学を学ぶ専門学校の学生から動物を愛するすべての人々まで人と動物のちがいが面白いほど良く分かる本。

● 楽しい解剖学 ぼくとチョビの体のちがい

佐々木文彦（大阪府立大学名誉教授）著
A5 判並製本/112 頁
定価 2,100 円（本体 2,000 円＋税）
送料 520 円　絶賛発売中！

学会関連書籍

☆写真図表がグレードアップ，さらに理解しやすい内容の教科書に。

● 獣医組織学 第三版

日本獣医解剖学会 編
A4 変型判上製本/326 頁/CD-ROM 付（Win/Mac両対応）
カラー写真，図表多数
定価 9,975 円(本体 9,500 円＋税)　送料 520 円　好評発売中

☆図版の説明に従い，名称や用語，矢印や線に自ら色づけすることで，それぞれの器官の位置，形，大きさが明瞭になり，楽しく学習できる。

● 犬の解剖カラーリングアトラス

Robert A. Kainer, Thomas O. McCracken 著
日本獣医解剖学会 監修
A4 変型判バインダー形式/240 頁/図版 84 点
定価 3,990 円（本体 3,800 円＋税）　送料 520 円　好評発売中

☆芸術的ともいえる見事なカラー解剖図と局所解剖学の手順に沿い，簡潔明瞭な説明文に従って解剖を進めるように構成。

● 犬の解剖アトラス　日本語版（第 2 版）

Klaus-Dieter Budras, Patrick H. McCarthy, Wolfgang Fricke, Renate Richter 著
林　良博（東京大学），橋本善春（北海道大学）監修
B4 変型判上製本/**定価 21,000 円**（本体 20,000 円＋税）
送料 520 円　好評発売中

☆ヒトと猫の対比が意識され，医学の解剖学と獣医解剖学の異同が指摘されており，従来にな平易さと簡便さを兼ね備えた手引書。

● 猫の解剖図説

Stephen G. Gilbert 著
牧田登之（山口大学） 監訳
A4 変型判上製本/130 頁/カラー図版 150 点
定価 13,650 円（本体 13,000 円＋税）
送料 520 円　好評発売中

☆家兎の有用性をさらに高める目的で，フランスにおいて獣医解剖学者の総力をあげて完成をみた，家兎の解剖に関する最新・決定版。

● 兎の解剖図譜

R. Barone, C. Pavaux, P. C. Blin, P. Cuq 著
望月公子（日本大学） 訳
B5 判上製本/240 頁/図版 169 点
定価 10,290 円（本体 9,800 円＋税）
送料 520 円　好評発売中

☆獣医師，食肉検査官，研究者および鳥類学者にとって必要な情報を提供する手引書。

● 家禽解剖カラーアトラス

John McLelland 著
牧田登之（山口大学） 監訳
A4 変型判上製本/136 頁/カラー写真 309 点
定価 15,750 円（本体 15,000 円＋税）
送料 520 円　好評発売中

☆“マウスのバイブル”と呼ばれているザイラー著書の全訳。参考書や実用書として必携の一冊。

● マウスの発生アトラス

Karl Theiler 著
牧田登之（山口大学） 監修
A4 変型判上製本/190 頁/図版 335 点
定価 11,550 円（本体 11,000 円＋税）
送料 520 円　好評発売中

☆「家畜解剖学」に外皮の項目を増やし，さらに分かりやすくリニューアル。

● 家畜比較解剖学　第二版

見上晋一（岩手大学）
武藤顕一郎（北里大学） 共著
B5 判上製本/406 頁/図版 168 点
定価 8,400 円（本体 8,000 円＋税）
送料 520 円　好評発売中

☆多数の新しい図説は臨床例の引用によって，家畜の正常の発生を総説し，読者に遺伝的また誘起された先天性欠損を紹介。

● 家畜発生学

Drew M. Noden, Alexander de Lahunta 著
牧田登之（山口大学） 監訳
B5 判上製本/386 頁/図版 287 点
定価 13,650 円（本体 13,000 円＋税）
送料 520 円　好評発売中

☆多くの写真や模式図を使用して分かりやすく解説した実習書。組織構造のカラー写真を収録した CD-ROM 付。

● 家畜組織学実習マニュアル　第二版

月瀬　東（日本大学） 武藤顕一郎（北里大学）
尼崎　肇（日本獣医生命科学大学） 監修
A4 判並製本/158 頁/CD-ROM 付（Win/Mac 両対応）
定価 4,410 円（本体 4,200 円＋税）
送料 520 円　好評発売中